

丹沢大山自然再生委員会（第4回）

日時：平成19年5月31日（木）14：00～16：00

場所：波止場会館 大会議室

【開会】

稲本代理

定刻となりましたので、ただいまから 第4回「丹沢大山自然再生委員会」を開会させていただきます。

なお、委員総数43名中、本日は22名のご出席がございましたことをご報告いたします。次に資料の確認をさせていただきます。

資料1 丹沢大山自然再生委員会のあり方について

資料2 丹沢大山自然再生委員会設置要綱（改正案）

資料3 丹沢大山自然再生委員会設置要綱（抄）新旧対照表

資料4 平成18年度事業報告

資料5 平成19年度事業計画（案）、が配布されています。

それでは、これから先の議事進行につきましては、木平委員長にお願いいたします。

木平委員長

当委員会は最初に県の自然再生計画の検討を行いました。それと平行して委員会の体制についても、ワーキンググループを設置して検討してきました。今日はその結果を報告し、委員会の骨格を決め、本格的な事業活動に移行したいと考えています。

また、今年度初めての会議なので平成18年度決算と19年度予算についても審議頂きたいと思います。

資料の中に「再生委員会の活動の原則」がありますが、これは私個人の意見をまとめたものです。「自主と合意」「社会的な認知」「自己評価と報告」「現実対応と継続」「順応と和」という5つの原則を紹介します。その下に記された「自然再生」は釧路の自然再生に取り組む中村さんという方の考え方です。参考になると思いますので、機会あれば読んでみてください。

それでは、ワーキンググループでの結論をリーダーの羽山委員から発表してもらいます。

羽山委員

資料1により報告します。まず、役割について議論しました。委員会の要綱の欠落部分を補う検討を行いました。

委員の構成ですが、再生法の協議会のように自由な個人参加を認めると参加人数が多くなり活動がうまくいかないと思われるので、5つのカテゴリーと別組織を考えました。5つは、実際に再生事業に取り組む団体の代表、専門的知見から示唆頂ける方、事業に協力して頂ける方、広報関係、利害を受ける方です。

目的と所掌事務ですが、法定協議会の「協議」や「連絡調整」に加え、「普及啓発」や「県民参加」を追加することを提案します。

委員の構成では、幹事を委員会運営の企画立案を担う頻繁に開く必要がある会議として位置づけました。専門的な検討を行う専門部会は、「事業評価・計画」と「資金・広報・県民参加」を提案します。分割するべきとの意見もありましたが、必要あれば増やす考えで、当面はこの2部会とすることを提案します。部会は委員から選任されます。

実施組織は、委員会の下部組織ではなく市町村やNPOが県に準じた再生事業を実施する際の組織です。市民や企業が参加できるよう門戸を開くようお願いしたいと思います。

事務局は将来は専属スタッフが必要ですが、当面は県にやって頂くこととなります。

サポーターは数万人単位の支援団体です。個人が対象で、会費による資金面の支援やイベントへの参加などのマンパワー的支援を想定しています。

活動資金の調達方法は新しい部会で検討することを提案します。原則的には事業実施組織の自主財源ですが、外部資金についても検討する必要があると思います。

部会と実施組織の詳細は、事務局から説明します。

緑政課 峯村技幹 資料1の5～7ページ、資料2（資料1に基づく設置要綱の改正案）
資料3（新旧対照表）を説明

木平委員長

ただいまの資料1及び資料2の報告について、ご意見、ご質問等ありましたらご発言ください。

新堀副委員長

新しい事業を行うには資金の問題がつかまとう。この委員会は民間団体なので県の「ボランティア活動推進資金」の対象となる。

もう一つ、水源環境税の「市民事業等の支援」事業の詳細はこれから決まるが、丹沢大山と水源環境は内容が重複するものが多い。金額も大きいので検討する必要がある。

木平委員長

資料1の3ページ組織図を見て頂きたい。委員の活躍の場は専門部会と実施組織リーダーの2つです。実施組織は自らの意志で手を挙げて頂く訳ですが、活動資金について気になると思います。自己資金に加えて民間や官庁の競争的資金を獲得する自己調達も含めて、委員会の財源つくりを検討していくこととなります。

糸長委員

ある資金に対して、委員会のメンバーが集まり事業計画をまとめて委員会として申請し、参加したメンバーで分配する共同調達という方法も考えられる。また、どこにどのような資金があるのか、どことどこの実施組織をカップリングするか、などコンサルティングする機関が必要であろう。

木平委員長

委員会各メンバーが長所を出し合って活かしていくことは重要です。部会では協賛金や寄付を募ることも検討していくことになると思います。

中村委員

公の資金をNPOが獲得するには難しい部分が多い。丹沢自然保護協会の事業を委員会事業に組み込むことを検討していきたい。

丹沢、森林、水源税、と各課バラバラの取組に見えるため、県民は分かりづらく企業は参加しにくいと感じる。

蓮場委員

この委員会は、水源の県民会議の一部を担うのか。2つの組織の整理を行うべきではないか。

木平委員長

この委員会は県以外のメンバーも入っている県とは独立した組織であり、県民会議は県構想の中の会議なので、この席では整理できないと思います。

新堀副委員長

環境農政部長と企画部長で調整して頂きたい。

蓮場委員

2つの会議の調整を行う部分を要綱に加えなくてよいのか。

羽山委員

相手もあることなので、今日ここでは決められない。

小野委員

2つの会議は姿勢が違う。この委員会はあくまで民間であり、調整するという関係ではないと思う。こちらから見れば、水源対策は丹沢再生の一部にすぎないとも言える。県民への見せ方をどうするかについて工夫が必要と思う。

木平委員長

それでは、要項改正について、ご承認頂けるでしょうか。

（「異議なし」の声）

ありがとうございました。それでは、議案の(2)の、「平成18年度事業概要報告（案）及び収支決算報告（案）」について、事務局から説明をお願いします。

緑政課 山田副主幹 資料4を説明

<p>木平委員長 続いて、平成 18 年度会計監査結果について、監事からご報告をお願いします。</p>
<p>中村監事 5 月 11 日に監査を行ったところ、収支決算は適正に処理されていることを確認しました。</p>
<p>木平委員長 ありがとうございました。ただ今の事務局及び監事から説明・報告につきまして、ご質問等がございましたらご発言をお願いします。質問が無いようでしたら「平成 18 年度事業概要報告及び収支決算報告」についてご承認をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。 （「異議なし」の声） 本件はご承認いただきました。 次に、議案の（3）「平成 19 年度事業計画（案）及び予算（案）」について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>緑政課 山田副主幹 資料説明（一部数字に誤りがあり、口頭で訂正。）</p>
<p>木平委員長 今年度のおおよその活動、予算の説明につきまして、ご質問等がございましたらご発言をお願いします。質問が無いようでしたら「平成 19 年度事業計画（案）及び予算（案）」についてご承認をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。 （「異議なし」の声） 本件はご承認いただきました。 報告事項として、日本造園学会での丹沢大山自然再生フォーラムについて系長委員からお願いします。</p>
<p>系長委員 5月11日に日大藤沢キャンパスでフォーラムを開催しました。参加者は70名ぐらいで、パネリストとして木平委員長、羽澄委員、保全センターの山根さん、他2名から報告をいただいたが、討論は時間が無く十分にはできなかった。自然再生をどのように推進をしていくかが課題ということで締めくくられました。</p>
<p>木平委員長 委員会の体制が正式に決まりましたので、「事業計画・評価専門部会」は既に設置されておりますので、もう1つの「資金・広報・県民事業専門部会」を設置し、活動を開始したいと考えております。 先ほどの説明にありましたように、この専門部会は、法定の自然再生協議会にはない、独自の事業を考え、実行する組織です。多くの県民の皆さんに、丹沢大山に関心を持っていただき、丹沢再生に参加していただくため、様々な企画をすぐに考え始めなければいけません。 皆さんの中から専門部会にご参加いただける方を募りたいと思いますが、この場でご返答いただくことも難しいと考えられますので、2週間程度の期限をとりまして、改めて文書によりお伺いいたしますので、ご検討のほどよろしく願いいたします。 なお、私といたしましては、これまで丹沢をフィールドとして様々な活動をされている中村委員には、ぜひ専門部会にご参加いただき、中心となって活動していただきたいと考えております。中村委員、ご検討のほどよろしく願いいたします。 特にご意見・ご質問がないようですので、これをもちまして、本日の議事を終了させていただきます。事務局に進行をお返しします。</p>
<p>稲本代理 お手元に、再生計画が載った「県のたより6月号」及び神奈川県自然保護協会の行事案内をお配りしましたので後ほどお読みください。19年度予算の修正したものは後日お届けします。 本日はこれをもちまして、第4回自然再生委員会を閉会させていただきます。長時間にわたり、ご議論いただき誠にありがとうございました。 引き続き休憩後に、第10回丹沢大山総合調査実行委員会を開催いたします。</p>